

子いはく

故きを温めて

新しきを知る

もって師となるべし

学年

五年

氏名

※次のむすび方でもよい。「なよ」

## 課題解説

### 温故知新

故（ふる）きを温（あたた）めて新しきを知る、というのは、昔の人たちの知恵に学び、そこから新しい知識を導き出すこと。それでこそ人の師になれる、と孔子は説いています。故を温（たず）ねて、との解釈もあります。

古い中国の思想家、孔子の言行録をまとめた「論語」（ろんご）に出てくる一節です。これを簡潔にまとめた「温故知新」はあまりにも有名な4文字熟語。日本書字文化協会のスローガンともなっています。

伝統文化を理解し、守ってこそ文字文化の振興があります。温故知新は書写書道を学ぶ私たちの座右の銘であり続けるでしょう。

**論語**―論語は、今から2500年ほど前の中国の思想家で儒教の祖とされる孔子の言行を死後に弟子たちがまとめた本です。学ぶ者の注意すべきこと、政治家の心得などについての短編がおさめられています。

角川学芸出版

「えんぴつ文字練習帳（上級編）」課題文例集所収